ラオス・ビエンチャン
タイ・コンケン
現地渡航レポート

作成者
吉村　優希
（救急救命士）

ビエンチャン・コンケンでの交流企画

はじめに

訪問地： ラオス(ビエンチャン)／タイ(コンケン)

実施時期： 2025年8月下旬～9月上旬

　今回の渡航では、ラオスのビエンチャンにおいてボランティアレスキューチームを対象とした研修会を実施しました。また、タイのコンケンでは、コンケン病院内にある指令センターの見学や研修会、意見交換会を行いました。

＊ビエンチャンでの研修会

　これまでの渡航において、ビエンチャンのレスキューチーム同士の交流が十分でないことが課題として指摘されていました。そこで今回は、４つのチームを組み合わせたグループを編成し、合同での研修会を実施しました。

　研修では、外傷傷病者対応を中心に、傷病者の観察や処置についてトレーニングを行いました。また、クイズ形式で医学的基礎知識の再確認を行い、各チームの活動エリアを整理・共有しました。

スキルトレーニング	生理学的評価・外傷時の全身固定・止血
レクリエーション	医学クイズ
グループワーク	解剖図・出動エリアマップの作製



バックボード固定の練習



棒を使った止血の練習



臓器の位置を描いて解剖図を作製



各チームの活動エリアマップ作製

＊コンケンでの研修会

　ビエンチャンのレスキューチームと共にコンケン病院を訪れ、コンケン市の救急医療体制についての説明を受けるとともに、指令センターを見学しました。

　現在のコンケンの救急医療体制は、長年にわたり地道に築かれてきたものであり、今回の見学を通してビエンチャンのレスキューチームが抱える課題の解決につながるヒントを得られることを期待し企画しました。

	
コンケン病院の見学	3か国合同ディスカッション

　チャリティーファンデーションでは、①スキル＆シミュレーション、②ディスカッション、③救急車同乗研修の3つのグループに分かれてグループワークを実施しました。
　この企画を通して、ビエンチャンのレスキューチームはコンケンの救急隊の活動内容を学び、現場での連携や教育体制の違いを知る機会となりました。
　また、ディスカッションでは、ラオス・タイ・日本それぞれが抱える課題を紙に書き出して共有し、その解決に向けて必要な取り組みについて意見を出し合いました。

＊最後に

　今回の活動を通じて、ラオス・タイ・日本のそれぞれの状況や課題を相互に理解し、今後の連携に向けた一歩を踏み出すことができたと感じています。
　今後は、ラオスのレスキューチームが活動を継続するために必要な資金調達の方法や、医療知識・技術を持続的に習得できる方法について検討を重ね、2026年2月～3月に予定している次回の渡航に向けて準備を進めていきます。



※コンケン病院にて集合写真